

■「長浜地区」 県立大学地域学実習Ⅰ意見集約表

テーマ：どろんこ祭りを誇りとした地域づくりと交流人口の拡大を考える

実習日：8/24（金）8/25（土）8/26（日） 3日間

資料1-1

1班 若者や女性の祭りへの参加策			
ねらい	目的	取り組み	取組内容
・イベントを通してどろんこ祭りの歴史的背景や祭りの意味 ・長浜地域の特産品や歴史 ・交流の場づくり	若者が参加しなくなる 珍しいイベントを開催し内外からの参加者を募る	1 どろんこスポーツ大会 どろんこバレー、どろんこ相撲 どろんこ宝探しなど	・景品を付ける、飛び入り参加OK ・地域の学生やボランティアと連携
	若者の参加や交流を図る	2 交流の場を設ける 浜でイベント開催	・相席制度（ひろめ市場のような酒場） ・男女の出会い ・浜に椅子と机を構える ・屋台を開く（うまいもの博、高知の特産品）
	・交流が深まる ・交流の場となる	3 泥遊び 泥団子きれい選手権	・子供たちだけで楽しめる ・親子でも楽しめる ・色つきどろだんご、泥の色をつけて投げ合い

- 泥遊びの課題
 - 大量の泥の提供先、○浜を汚さない工夫
 - どろんこ祭りの本来の姿を知ってもらう
- 泥遊びの解決策
 - 地元小中学生ボランティア協力のもと泥の準備
 - プールを準備（レンタル・簡易プール）
 - 回覧板やポスターで呼びかける
 - カラーパウダーで着色した片栗粉などを代用



2班 長浜地区の年中活性化への取り組み			
目次	取り組み	取組内容	
1 歴史	看板に写真・絵を入れて分かりやすく	看板に写真・絵・豆知識をつける	問題点・不安なところ ・津波などの不安から移住定住に踏み出せない ・津波で家が流される、死にたくない ・避難場所、なるべく安全な場所に住みたい
2 防災	対策をインターネットやイベント時に宣伝	・インターネットの活用 ・イベントの時にアピール	
3 祭り	内部：幼い時から祭りに参加 外部：スケジュール制作、ネットで宣伝 →昔の「追って追われるどろんこ祭り」を復活	幼い時から祭りの楽しみを知る ネットで宣伝、お祭りスケジュールを作る 昔のどろんこ祭りの方が楽しかった 移動できる範囲を指定（空き家の使用） セクハラにならないルールづくり	
4 魅力	パンフレット制作、ネットで宣伝 空き家の活用	ネットで情報提供、パンフレットを作る 若者の事業への場所提供 料理なら年中経営、地産地消、地元合うもの	



3班 祭りを地域内外に浸透させる策			
ねらい	取り組み	取組内容	
長浜地区を知ってもらう	SNSの活用	LINE・Instagram等を活用（公式アカウント作成） →長浜地区の特徴、良さ、イベントを宣伝	
	早乙女ミスコン #高知市長浜	・選定後、ミス早乙女を中心にLINEスタンプ作成 ・長浜地区ローカルCMの作成	
SNSを利用していない人たちに宣伝すること	長浜地区ローカルCM 植えた稲の収穫祭	ミス早乙女が出演 年2回長浜を訪れてもらう どろんこ祭り以外のことを知ってもらう（ツアー等）	
	その他（泥みくじ、コスプレ大会、ゆるきゃら）	どろんこ祭りの名称を変える、踊りを現代風に改良	



■「御豊瀬地区」 県立大学地域学実習Ⅰ意見集約表

テーマ：地域に住む女性らが活躍できる地域活性化策を考える

実習日：9/9（日）9/15（土）9/16（日） 3日間

資料1-2

A班 御豊瀬にきてみ〜や			
目的・目標・ねらい	課題と目的	取り組み	取組内容
みませに人を呼び込み、活気ある地域にする	課題：みませに入ったときに寂しい感じがした 目的：歓迎ムードを作ること！！	■アイデア1 <u>すぐに実現可能なもの</u> 看板の設置、堤防アート	みませの入口による看板を、目玉になる堤防アート
	課題：廃校になった小学校が活用されていない 課題：少子化の進行、小学校・保育園の閉校 目的：小学校を活用し、たくさんの人に来てもらう	■アイデア2 <u>時間のかかるもの</u> 小学校の活用	カフェ、遊具の設置、雨の日も遊べる
	課題：空き家が活用されていない。空き家を活用し、倒壊を防ぎ、街の景観を保護する。 目的：地域の方が活躍できる場をつくる	■アイデア3 <u>時間のかかるもの</u> 空き家の活用（空き家を下宿）	学生：みませの美味しいご飯がある、景色がきれい 市内に近く、自然の中で生活できる 寮母さん：若者と関わる機会が増える、特技が活かせる 地域の中で活躍できる、収入につながる ※夜の浦戸大橋はともきれい



B班 未来予想図Ⅰ			
目的・目標・ねらい	現状・課題/地区の魅力	取り組み	取組内容
みませ地区で女性が活躍できる場を作る ・地域の魅力をより多くの人に知ってほしい ・学生と地域との連携を深める 大学生を活性化の起爆剤に！ 若い力で地域に活気を！	■現状・課題 ・高齢化（市内1番の高齢化率：63.3%） ・働ける人口が5年で3割減 ・空き家が多い、ゴミが多い ・使用されていない小学校、保育園 ・避難場所への経路が厳しい ・漁業などで後継者不足、お店がない ■地区の魅力 ・新鮮な魚、干物（珍味・名物・郷土料理） ・住民同士の顔がわかる ・付き合いが長い・繋がりが強い ・歴史を感じられる昔ながらの街並み ・自然に触れ、落ち着いた空間で過ごせる幸せ	■STEP1 <u>学生と地域住民の共同</u> ・地域との交流を増やす（みませを知る） ・県立大ホラティアサークルが行事に参加 ■STEP2 <u>外部への発信・移住促進</u> ・みませの良さをSNSなどで発信 ・スタンラリーなどイベント企画 ■STEP3 <u>愛され住みたい地域に</u> ・小学校の活用 ・避難路の整備、道路のバリアフリー化	・みませ祭り、敬老会に参加 ・健康体操などを行い、地域とのふれあいの場を設ける ・ゴミ拾い、地域に看板、地図を作成 ・地域の方にガイドをお願いする ・地域を歩きながら釣り体験 ・干物作り体験や、漁港にいる鳥にえさやり体験 ・サイトなどを作成、お祭りの日は渡船もお祭り仕様に ・一室でカフェ、ワークショップを定期的開催 ・校庭に子供が遊べる遊具と駐車場を作る



C班 中からも外からも人を呼ぶ街づくり			
目的・目標・ねらい	課題	取り組み	取組内容
■目的 魅力的でありながらも、あまり知られていないみませの魅力を再発信し、小学校の活用や祭りを通して街に活気を取り戻す ■最終目標 みませの人たちも住んでいて楽しい、みませの外からも人が訪れて活気のある街にする	・みませ地区の知名度が低い ・小学校が活用されていない ・みませ祭りにみませ内外からもっと人を呼ぶ	■短期 ①日曜市でのチラシ配布 ②みませ祭りの公式SNSの強化 ■長期 ①小学校の活用 運動場、体育館 教室 プール ②朝市の開催 ③みませ祭りを盛り上げる	・公共施設へポスター掲示 ・公式フェイスブックがあるが、更新頻度が低い →HP、ツイッター、インスタで効果的に発信 →草むしり、駐車場、よさこい練習場所（イベントスペース） →ワークショップ「手芸や服飾を販売」、地域外からも販売募集 →夏にフリー貸し出し ※釣り堀：水質管理に難あり ・新鮮な魚や干物が食べられる、七輪で焼いて食べる ・朝6,7時から開催、みませの女性に魚をさばいてもらう ・2部制にする、よさこいチームに参加してもらう ・昼はお年寄りや子供向け、夜は花火や屋台で大人向けに

■掲載内容
 ・まちの良さ 自然が多くゆったり落ち着いた雰囲気
 ・特産品 新鮮な魚や干物の紹介、調理法
 ・祭り 祭りの様子や特徴を載せ、参加者を募集
 ・観光スポット 観光スポットや良い景色を紹介
 ■発信方法
 ・HPがあれば外部の人が情報を手に入れやすい
 ・ツイッターやインスタの方が人目に付きやすい
 ・人に見られやすオリジナルハッシュタグをつくる
 （例：#mimase_misemasho #japan）
 ・リポストを行い、みませを訪れた人の投稿を再発信
 ・料理動画をアップ

■「浦戸地区」 県立大学地域学実習Ⅰ意見集約表

テーマ：浦戸地区の交流人口拡大に向けた「まちあるきコース」とその拠点づくりを考える

実習日：8/19（日）8/20（月）8/21（月） 3日間

資料1-3

輝け浦戸	尾崎果子 小原麻侑 西本真悟 吉永さくら	ねらい	課題	取り組み	取組内容
若者が魅かれる観光地に	店がない	インスタ映え SNSで拡散	若者がいない	■スポット1 桂浜 ■スポット2 堤防アート ■スポット3 トクトクステーション ■スポット4 しらすロード ■スポット5 浦戸の塩クリームソーダ	月の名所、波が特徴 近くの海や川でとった魚を展示、生き物やスタッフとの距離が近い 桂浜⇄浦戸、堤防に絵を描く 光るペンを使用、夜に絵が光る 漁港から浦戸の町をトクトクで移動 浦戸の特産⇒しらす しらす丼、しらすパン、しらすピザ 桂浜の塩を使用 桂浜の海の色を再現、クリームソーダ×浦戸の景色

家族団欒！桂浜浦戸満喫ツアー	植木万裕 岡本沙也 西村紗貴 藤戸柚花	地域の声	浦戸発展のために必要なこと	取り組み（現在・これから）	取組内容
若者が住みやすい場に 浦戸での仕事がない 人と人が近い存在であるように 空き家が目立つ	釣り道具のレンタルショップを作る 看板 道路整備 海岸の清掃 公民館の2Fを増築 空き家活用 情報発信			■桂浜 ■桂浜水族館 ■漁港 ■花街道	四国山地の砂でできている、遊泳禁止 87年目を迎えて日本で2番目に古い、満足度80% お客さんとの距離が近いのがコンセプト、有名なアカメがいる しらす丼、どろめ丼が食べられる食堂をつくる 釣った魚を食べられるようにする ⇒ 漁業の活性化につながる 花、海、屋台、食べ歩きができるようにする 休憩場所を作る、ベンチ、パラソル、カフェ、公民館2Fをカフェに インスタ映え、#つけると世界の人に見てもらえる サイクリングロード、自転車、三輪車

1班① 子どもも大人も楽しめる浦戸	関彩音 藤原ゆうか 小野くるみ 柿本真奈 山澤菜々子 森國由貴 岡本紗季	取り組み	取組内容
①浦戸のフォトジェニックスポット	網のトンネル、狭い道路や密集した街並み		※浦戸の改善点 1 海のごみを掃除して綺麗に 2 草刈りをしてより“映える”スポットに
②チェーンソーアート	チェーンソーを使った彫刻 看板をつったり、桂浜から浦戸の道中に置いて 歩くのが楽しくなるようにする。		

1班② 浦戸の未来構想	
1浦戸をペイント	「空き家」にペイントをすることで浦戸全体を明るく 「堤防」に浦戸名物やイラストを描いて楽しく歩けるように
2海鮮朝イチ	朝イチを開いて天ぷら、じゃこ天、しらすを販売 空いている土地を利用してみんなで集まるイベントを開催
3浦戸でも空蘭撮りFESを	24時間フォトフェスティバル
4掲示板利用＆看板をつくる	「天ぷら屋さんまであと100m」の看板

